

江戸大奥

特別展



PRESS RELEASE

江戸大奥

特別展
SPECIAL EXHIBITION
ŌOKU: WOMEN OF POWER IN EDO CASTLE

大奥といえば、選ばれた才色兼備な女性たちが、豪華絢爛で美麗を尽くした衣装をまとい、

広い江戸城で優雅に暮らす様子を思い浮かべることでしょう。

将軍の妻である御台所(正室)や側室、そこに仕える女中たちの序列が整えられ

「大奥」と称されるようになったのは四代将軍徳川家綱の時代ですが、

その礎を築いたのは三代将軍徳川家光の乳母として強い影響力を持った春日局(斎藤福)でした。

厳格な制度としきたりの中、徳川家の存続のために将軍の世継ぎを生み育て上げるという、

親族あげての期待とプレッシャーの中での生活は、

想像するような華やかで美しい側面だけではなかったことでしょう。

歴代の御台所と、それを支える女中の歴史を見ると、徳川将軍家という大きな権力の下で、

時にその権勢を振るい、時に大きな締め付けに遭いながら生きてきた女性たちの栄枯盛衰が見えてきます。

その一方で、彼女たちは、守るべきしきたりとともに日々を過ごしながら、

閉ざされた生活の中で喜怒哀楽を享受してきました。

江戸幕府の隠された歴史ともいえる、大奥の歴史と文化を、その虚実を通してご覧いただきます。



『千代田の大奥』より「千代田の大奥 お櫛あげ」
楊洲周延筆 明治27年(1894) 東京国立博物館蔵



『千代田の大奥』より「千代田の大奥 神田祭礼上覧」
楊洲周延筆 明治28年(1895) 東京国立博物館蔵



『千代田の大奥』より「千代田之大奥 寄合」
楊洲周延筆 明治28年(1895) 東京国立博物館蔵

みどころ

① 豪華絢爛! 大奥で演じられた歌舞伎の衣装

坂東三津五郎に弟子入りした坂東三津江は、

女性の歌舞伎役者として大奥に出入りしました。

大奥で演じられた歌舞伎衣装を一挙公開するのは今回が初めてです。

② 繊細な刺繍模様…武家きものの数々

ドラマや映画とは異なる、本来の武家女性たちの装いを紹介。

美しい和刺繍で草花や風景を表わした掻取や小袖の数々を、

四季折々のしきたりとともにご覧いただきます。

③ 重要文化財 奈良・興福院の刺繍掛袱紗全31枚を公開!

五代将軍徳川綱吉が側室である瑞春院(お伝の方)にあてて、

贈り物の上に掛けて送ったと伝えられる掛袱紗。

元禄期における最高の刺繍技術を用いて制作された逸品ぞろいです。

④ 『千代田の大奥』40場面を全期間中、楽しめます

『千代田の大奥』は、知られざる大奥の女性たちの生活を楊洲周延が描いた錦絵です。

庶民があこがれた江戸城の大奥の様子が、

実物で全場面見られる、またとない機会です。

※東京国立博物館所蔵作品と文化学園服飾博物館所蔵作品を期間中、合わせて展示します。
※会期中、展示替えがあります。

⑤ 大奥のヒロインたちをゆかりの品とともに紹介

歴代の御台所や側室、絵島生島事件で有名な月光院付きの御年寄である絵島、

十三代将軍徳川家定などに仕えた将軍付き御年寄・瀧山をはじめとする女性たちを、

ゆかりの品々とともに紹介します。

前期展示:7月19日(土)~8月17日(日) 後期展示:8月19日(火)~9月21日(日)

※展示期間の表記のないものは通期展示を予定しています。

第1章 あこがれの大奥

江戸時代以降、庶民にとって大奥はあこがれでありながら、江戸城の奥深くに隠された世界でした。本章では、ドラマなどで知られる長い御鈴廊下のセット、十一代将軍徳川家斉時代の大奥をモデルにしたとされる『修紫田舎源氏』、『千代田の大奥』に代表される錦絵などを通して、江戸時代から現代にいたるまで、庶民があこがれとともにイメージした大奥を紹介します。

江戸時代末期から明治時代にかけて活躍した絵師・楊洲周延が、大奥の様子を懐古的に描き人気を博しました。大奥の女性たちの生活や行事を40場面の絢爛豪華な錦絵で表わしています。



『千代田の大奥』より
「千代田の大奥 滝見のお茶や」
楊洲周延筆 明治28年(1895)
東京国立博物館蔵

吹き上御庭にはいくつかの茶屋が設けられており、滝が流れる「滝見御茶屋」がありました。十四代徳川家茂は滝見御茶屋に出かけ、天璋院(篤姫)や静寛院宮(和宮)と春の花見を行ったといわれています。

『千代田の大奥』
全場面一挙公開！
※会期中展示替えがあります。



『千代田の大奥』より
「千代田大奥 御花見」
楊洲周延筆 明治27年(1894)
東京国立博物館蔵

桜の季節には、西の丸の吹き上御庭や五十三間馬場にて、花見を催しました。新調した衣装をまとい外出します。実際には御次が御台所に紺の無地の傘を差し掛けたといわれています。



『葵艸松の裏苑』より「第四巻 家綱公御台所」
豊原周筆 明治12年(1879)
東京・町田市立国際版画美術館 後期展示



奥奉公出世双六
万寧応賀作、歌川国貞(三代豊国)筆 江戸時代 19世紀
東京都江戸東京博物館蔵 前期展示

双六は、賽をふり、振り出しから上がりまでの早さを競う遊びです。本作品は、大奥での出世のステップを各マスに描いた絵双六。江戸時代末期、戯作者万寧応賀により作られた刷り物です。

大奥で出世したい！
まずは双六で運だめし

第2章 大奥の誕生と構造

御台所や側室、そこに仕える女中たちの序列が整えられたのは、三代将軍家光の時代です。「大奥」の礎を築いたと言われる春日局(斎藤福)と家光との関係や、草創期の大奥を支えた天樹院(千姫)、そして大奥で大きな政治的権力を握り栄枯盛衰を見てきた女中たちを紹介します。

2-1 春日局(斎藤福)

三代将軍家光の乳母、春日局は、家光が将軍に就任すると、将軍付きの局として大奥で権力を得ました。徳川家直系の子孫に将軍家を継がせるために、御台所や多くの側室を大奥に迎え入れ、「大奥」の礎を築きました。



かすがのつぼめ
春日局像(部分)
伝狩野探幽筆 江戸時代 17世紀 東京・公益財団法人 徳川記念財団蔵

家光の乳母だった春日局の肖像は、白小袖に着袴姿で表わされます。着用する緋長袴は、寛永9年、宮廷に参内した際に後水尾天皇より拝領したものといわれています。

その姿は
家光への母性愛の証し

2-2 天樹院(千姫)

二代将軍徳川秀忠の娘である千姫は、豊臣秀頼や桑名藩の本多忠刻に嫁ぎましたが、嫡男や夫に先立たれます。その後、江戸城に戻り家光の三男綱重を養子にして徳川将軍家直系の存続を守った功労者です。



てんじゅういん せんひめ
天樹院(千姫)像
江戸時代 17世紀 茨城・弘経寺(常総市)蔵

徳川将軍家直系の
存続を守った家康の孫娘

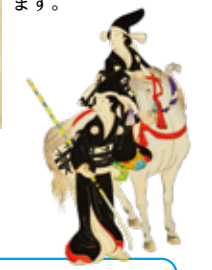
2-3 大奥の構造

江戸城の本丸は「表」「中奥」「大奥」に分かれており、御台所や側室、御年寄をはじめとする女中たちは「大奥」で生活していました。遺された文書や絵図から幕末における大奥の構造を知ることができます。



えどじょうほんまるおおおくそうちず
江戸城本丸大奥総地図
江戸時代 19世紀 東京国立博物館蔵

江戸城はたびたび火災に遭いました。本作品は、天保15年(1844)の火災により再建された江戸城本丸大奥を俯瞰して描いたものです。御殿(黄色)、御広敷(薄橙色)、長局(赤色)が色分けされ、間取りが詳細に書き込まれています。



2-4 女中たちの生涯

女中の中でも最高の地位にある御年寄(老女)は、大きな権力を得ることができました。「絵島生島事件」の絵島、将軍付きの御年寄、瀧山のように政治的にも影響力をもっていた女中たちを、ゆかりの品や日記などを通して紹介します。



おんなのりもの
女乗物(部分)
江戸時代 19世紀 埼玉・銅杖寺(川口市)蔵

将軍付き御年寄
瀧山が使用した女乗物

第3章 ゆかりの品は語る

世継ぎを生み育て上げる使命を与えられていた將軍の妻妾たちにとって、大奥での生活は常にプレッシャーとの戦いでした。世継ぎの生母と正室との対立、利害の異なる女中たちとの間での抗争……閉ざされた生活の中で気丈に生きた歴代大奥のヒロインたちを紹介します。

3-1 歴代のヒロインたち

歴代將軍の御台所や側室、姫君たちの実像は、まさに御簾越しに見るかのようです。しかし、わずかに遺された遺品から、それぞれの女性たちの真の姿が垣間見られます。



「玉の輿」と評判だった
お玉の方

重要文化財
振袖 黒綸子地梅樹竹模様
江戸時代 17世紀 東京・護国寺(文京区)蔵 前期展示

裾から肩へと大きく立ち上がる梅樹模様を摺匹田と刺繍で表わした総模様の振袖。桂昌院(お玉の方)が若かりし頃にお召しになった衣装です。三代將軍家光の側室、桂昌院は五代將軍綱吉を生み育てました。



重要文化財 刺繍掛袱紗
浅葱縹子地杜若と撫子に酒器「長生」字模様
江戸時代 17~18世紀 奈良・興福院(奈良市)蔵 前期展示



重要文化財 刺繍掛袱紗
紅綸子地讓葉と熨斗羽子板かるた「楽寿」字模様
江戸時代 17~18世紀 奈良・興福院(奈良市)蔵 後期展示

瑞春院(お伝の方)は、五代將軍綱吉の実子を生み育てた唯一の側室です。綱吉は瑞春院のために当時の刺繍技術の粋を凝らしたこれらの掛袱紗をあつまえ、折々の行事に贈りました。

重要文化財
純金葵紋蜀江文硯箱
江戸時代 17世紀 愛知・徳川美術館蔵 後期展示
© 徳川美術館イメージアーカイブ/DNPPartcom

三代將軍家光の長女、千代姫は、尾張徳川家二代藩主、徳川光友の正室となりました。葵の御紋が散らされた硯箱や沈箱はすべて金無垢。千代姫の格の高さがうかがえます。

3-2 天璋院(篤姫)と 静寛院宮(和宮)

十三代將軍家定の正室、天璋院と、十四代將軍家茂の正室、静寛院宮の間には確執があったと言われています。それぞれの遺品を比較すると、武家と公家という文化や生活の違いが見られます。しかし、幕末から明治維新の動乱の中でお互いが協力しあう関係に変わっていきました。



故郷を偲ぶ
薩摩焼の数々

色絵布袋水滴
江戸時代 19世紀 東京・公益財団法人 徳川記念財団蔵

乳白色の地に鮮やかな上絵を施した薩摩焼。薩摩に生まれた篤姫にとってはなじみ深いもので、日々愛用していたのでしょう。



紅搔取姿三つ折人形
江戸時代 19世紀 東京・公益財団法人 徳川記念財団蔵 9/2(火)~21(日)展示
和宮が京都から大奥まで携えた遺愛の人形。着せ付けたり座らせたりして遊んだのでしょう。四季の草花と鶏を刺繍した搔取が華やかです。



雀好きだった
篤姫の衣装

掻取 萌黄紋縮緬地雪持竹雀模様
江戸時代 19世紀 東京・公益財団法人 徳川記念財団蔵 8/5(火)~8/17(日)展示

奥入りに際して篤姫の養家となった、近衛家の抱牡丹紋を付した搔取です。竹林に雀が飛び交うさまを腰下に刺繍しており、降り積もる雪に耐え常緑を保つ竹が凛々しい意匠です。篤姫は雀の意匠を好んだようで、漆工品や帯などの篤姫ゆかりの品々に用いられています。



皇女和宮も所持していた
武家風の搔取

掻取 白綸子地桜牡丹藤源氏車模様
江戸時代 19世紀 東京・公益財団法人 徳川記念財団蔵 7/19(土)~8/3(日)展示
大奥では、白綸子地に刺繍を全面に施した搔取が最高級の上着でした。桜や牡丹、藤などの花々、源氏車などの優雅な意匠を、刺繍や摺匹田で表わしており、皇女和宮所用の品と伝わります。

第4章 大奥のくらし

壮麗な婚礼調度とともに興入るのは、大奥に生まれた將軍の息女や、大奥に迎え入れられた御台所たち。大奥の中では、どのような日々を過ごしていたのでしょうか。四季折々の衣装、かるたや楽器などの遊び道具、女性の歌舞伎役者がまとった衣装などを通して紹介します。

4-1 大奥の婚礼

將軍の息女や正室たちは、贅を尽くした婚礼調度とともに興入りました。婚礼行列は屏風や絵巻物などに描かれ、その壮大な様子が語られました。將軍家が婚礼によって宮廷や諸大名と親戚関係を築くことの重要性は、婚礼にまつわる重厚な品々が物語っています。



竹菱葵紋散蒔絵婚礼調度
文化13年(1816) 東京国立博物館蔵

紀州徳川家十代藩主、徳川治宝の娘、鶴樹院(豊姫)の婚礼調度は、同じ模様の蒔絵を重厚に施した豪華な一具です。



竹菱葵紋散蒔絵女乗物(部分)
寛文4年(1664)
東京国立博物館蔵

寛文4年に綱吉のもとへ嫁いだ、浄光院(鷹司信子)の女乗物。高蒔絵で両家の家紋を散らし、内面を源氏絵で飾る格の高い形式です。当時綱吉は館林藩主でしたが、のち五代將軍となるにおよび、信子も江戸城大奥へと入ることになります。



徳川種姫婚礼行列図巻 上巻(部分)
山本養和筆
江戸時代 18~19世紀
東京国立博物館蔵
※会期中、場面替えがあります。



掻取 紅綸子地流水花折枝模様
江戸時代 18世紀 東京国立博物館蔵

十代將軍徳川家治の養女として江戸城大奥に入り、のちに十代紀州藩主、徳川治宝へ嫁いだ種姫所用の掻取です。細やかな刺繍、絞りで花々や流水模様を表わします。掛下帯を締めた間着の上に羽織のようにまとったのでしょう。

大奥で過ごした姫君の
華やかな掻取

4-2 四季の装い

江戸文化の研究者、三田村篤魚の『御殿女中』によれば、大奥の女性たちはその身分や日本の四季の変化に合わせて装いについて細かく定められていたことがうかがえます。江戸時代後期の武家女性が用いた、刺繍で彩られた掻取や小袖、帷子などを紹介します。



4-3 日々の生活とあそび

大奥の女性たちが閉ざされた生活空間の中で過ごす日々は、楊洲周延筆『千代田の大奥』にも描かれています。実際にはどのように過ごしていたのでしょうか。歴代の正室が用いた生活用品や遊び道具、節供の行事に用いられた雛道具などを紹介します。



義歯
江戸時代 19世紀 個人蔵

十二代將軍徳川家慶の正室、浄観院(榮宮喬子)の墓から出土した日用品。手持式の鼻眼鏡は、信仰心の篤かった喬子が、写経や書見に用いたものでしょうか。40代半ばの没年にはやや似つかわしくない、上顎にしっかりとめはめる義歯は、市中と異なる大奥の食生活を想像させます。



眼鏡
江戸時代 19世紀 個人蔵



薩摩切子雛道具
天璋院(篤姫)所用
江戸時代 19世紀
東京・公益財団法人 徳川記念財団蔵

大奥の雛祭りを涼やかに飾る
小さきガラス工芸の精華



4-4 大奥の歌舞伎

江戸時代の庶民の娯楽として親しまれた歌舞伎は、大奥にいる女性たちにとっても魅惑的な娯楽のひとつでした。十一代將軍家斉の時代に活躍した女性の歌舞伎役者、坂東三津江が大奥で演じた際に用いた衣装の数々は、大奥における豪華絢爛な舞台の様相を伝えます。



小忌衣 浅葱天鷲絨地菊水模様
坂東三津江所用、高木キヨウ氏寄贈
江戸時代 19世紀 東京国立博物館蔵



振袖 紅縮緬地桜流水模様
坂東三津江所用、高木キヨウ氏寄贈
江戸時代 19世紀 東京国立博物館蔵



羽織・着付 萌黄緇子地の矢模様
坂東三津江所用、高木キヨウ氏寄贈
江戸時代 19世紀 東京国立博物館蔵

女性の役者による
大奥の歌舞伎

開催概要

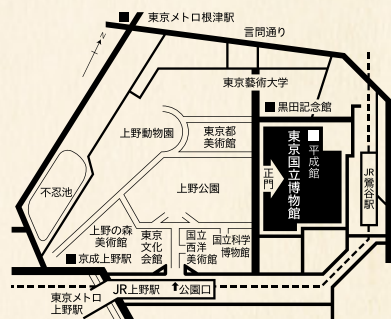
展覧会名	特別展「江戸大奥」
英語展覧会名	Special Exhibition Ōoku: Women of Power in Edo Castle
会期	2025年7月19日(土)～9月21日(日)
休館日	月曜日、7月22日(火) ※ただし、7月21日(月・祝)、8月11日(月・祝)、9月15日(月・祝)は開館
開館時間	午前9時30分～午後5時 ※毎週金曜・土曜、7/20(日)、8/10(日)、9/14(日)は午後8時まで ※入館は閉館の30分前まで
会場	東京国立博物館 平成館
主催	東京国立博物館、NHK、NHK プロモーション
特別協力	公益財団法人 徳川記念財団
協賛	SGC、DNP 大日本印刷
お問合せ	050-5541-8600(ハローダイヤル)
展覧会公式 X	@tohaku_edo2025
展覧会公式 Instagram	@tohaku_edo2025
展覧会公式サイト	https://ooku2025.jp/



展覧会公式サイト



※会期中、一部作品の展示替えを行います。
※展示作品、会期、展示期間、開館時間、休館日等については、今後の諸事情により変更する場合があります。
最新情報は展覧会公式サイト等でご確認ください。



東京国立博物館 平成館 (上野公園) TOKYO NATIONAL MUSEUM (UENO PARK)

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9

東京国立博物館ウェブサイト <https://www.tnm.jp/>

- JR 上野駅公園口・鶯谷駅南口より徒歩10分
- 東京メトロ銀座線・日比谷線 上野駅、東京メトロ千代田線根津駅、京成電鉄京成上野駅より徒歩15分

報道関係お問合せ

特別展「江戸大奥」広報事務局(共同PR内) 担当:三井
TEL:03-6264-2382 E-mail:ooku2025-pr@kyodo-pr.co.jp



特集「創建400年記念 寛永寺」

2025年7月8日(火)～8月31日(日)
東京国立博物館 本館 特別1室・特別2室

※本展のチケットで観覧当日に限りご覧いただけます。

本展では、NHK ドラマ10「大奥」で用いられた衣装を展示し、ドラマなどでおなじみの「御鈴廊下」のセットを再現します。江戸時代における大奥の見取り図を表わした絵図や、実際に江戸時代の武家女性が用いた衣装などを展示する一方で、ドラマや映画の世界と、実際の大奥では、どのような違いがあるのか、比較しながらご覧ください！



※画像はイメージです。

NHK ドラマ10「大奥」のセット “御鈴廊下”を一部再現！

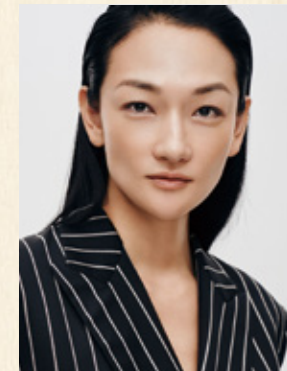
華やかな大奥の空間を堪能いただけます。
ドラマで用いられた衣装の展示もお楽しみに！

観覧料(税込)

	当日券	前売券
一般	2,100円	1,900円
大学生	1,300円	1,100円
高校生	900円	700円

※中学生以下、障がい者とその介護者1名は無料。入館の際に学生証、障がい者手帳等をご提示ください。※前売券は4月22日(火)から7月18日(金)までの間、東京国立博物館正門チケット売場(窓口、開館日のみ、閉館の30分前まで)、展覧会公式サイト、各種プレイガイドにて販売します。

音声ガイド



NHKドラマ10「大奥」で徳川吉宗役、NHK大河ドラマ「べらぼう～蔦重栄華乃夢斬～」で大奥総取締 高岳役を演じている富永愛さんがナビゲーターに就任！
本展のみどころや、大奥の真実を語る作品の魅力をご紹介します。

音声ガイドナビゲーター
富永 愛さん(モデル)



お得な前売セット券

前売ペアチケット

本展のチケット(一般)2枚がお得に購入いただけます。ご家族、ご友人とあわせてお越しください！

販売価格:3,500円(税込) 販売期間:2025年4月22日(火)～7月18日(金)

前売グッズ付きチケット《数量限定》

大奥展とコラボしたグッズと観覧券(一般)のお得なセットです。

プローチ 着せかへ大奥

100セット限定
7,000円(税込)



アクリルアクセサリを制作するCHAKIRACCHOとのコラボ。3種類の着物がついているのは前売セット券のみです。

オリジナル トートバッグ

300セット限定
3,700円(税込)



イラストレーター中村杏子さんが本展のオリジナルイラストを制作。御鈴廊下がカラフルでにぎやかに描かれています。

販売場所:公式チケットサイト(ART PASS)

販売期間:2025年4月22日(火)10:00～7月18日(金)(売り切れ次第終了)

※画像は完成イメージです。実際の商品と異なる場合があります。※予定販売数に達し次第、販売を終了いたします。
※オリジナルトートバッグはセット券が完売した場合でも本展会場内特設ショップにて販売予定です。(販売価格2,200円(予定))
※東京国立博物館正門チケット売り場では購入できません。



ART PASSはコチラ



グッズの詳細はコチラ

オリジナルグッズ

ポストカード、クリアファイルなどの定番商品から、『千代田の大奥』や、大奥ゆかりの染織品をモチーフにしたシャツ、傘、靴下など、さまざまなオリジナルグッズをご用意します。詳しくは、公式HPで随時お知らせいたします。





WOMEN OF POWER IN EDO CASTLE
— SPEAKING OUR TRUTH AT LAST!